

都市再生整備計画 事後評価シート

新組・桂・富曽亀地区

平成23年3月

新潟県長岡市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	新潟県	市町村名	長岡市	地区名	新組・桂・富曽亀地区	面積	954ha
交付期間	平成18年度～平成22年度	事後評価実施時期	平成22年度	交付対象事業費	402百万円	国費率	0.4

1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名					
		提案事業	—					
	当初計画から削除した事業	基幹事業	1.備蓄倉庫 2.炊き出しベンチ 3.自家発電施設 4.自立電源街灯		1.地域防災計画との整合性をとるために削除する。 2.3.4.地域の特性に見合った防災のまちづくりに結びつけるため、より実効性のある事業内容に再検討し、削除する。		1.備蓄倉庫の削除により、指標の評価ができず、指標(避難所機能の向上)を削除した。 2.3.4.目標や数値指標への影響は、最小限であるため据え置く。	
		提案事業	1.防災点検・計画書作成		1.地域の特性に見合った防災のまちづくりに結びつけるため、より実効性のある事業内容に再検討し、削除する。		1.地域防災マップ作成に変更したことから、指標「自主防災会組織の会議」の目標値(開催回数)を変更した。	
	新たに追加した事業	基幹事業	1.道路事業(都市計画道路3・4・52四郎丸町永田線、山本160号線)		1.幹線道路の機能充実や防災道路の整備として追加する。		1.目標や数値指標への影響は、最小限であるため据え置く。	
		提案事業	1.地域防災マップ作成事業 2.まちづくり交付金事業実施に関する成果検証及びまちづくり方策検討事業		1.地域の特性に見合った防災のまちづくりに結びつけるため、より実効性のある事業内容として再検討し、追加する。 2.事業効果分析のため追加する。		1.指標「自主防災会組織の会議」の目標値(開催回数)を変更した。 2.影響なし。	
	交付期間の変更	当初	平成18年度～平成22年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		—		
		変更	—					

2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ
				基準年度		目標年度		モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期
	指標1	主要幹線道路までの到達時間	%	100	H18	80	H22		80	○	あり なし	国道への距離が大幅に短縮された。また、道路整備により、危険箇所の解消や走行空間の快適性向上につながり、地区の利便性が向上した。さらに、道路ネットワークが形成されたことにより、災害時の避難や救助の際に、複数の経路が選択できるようになった。	平成23年5月
	指標2	自主防災組織の会議	回/年	1	H18	3	H22		3	○	あり なし	地域防災マップ作成により自主防災組織の会議等が活発に行われ、これまで以上に地域住民の防災意識が高まり、会議内容も会議姿勢も活性化した。また、防災施設の設置の周知を含めた勉強会(防災訓練や施設説明会)等も開催されたことにより、地区住民の防災意識の向上が促進した。	平成23年4月

3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ
				基準年度		目標年度		モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期
その他の数値指標1	住環境の向上に関する住民満足度	%	—	—				66				道路整備や防災施設の設置による利便性・安全性の向上や、地区住民の防災意識の向上により、総合的に住環境がよくなったと感じる結果につながった。	—

4)定性的な効果発現状況	防災訓練や勉強会、地域防災マップの作成により、住民の防災意識の向上が図られ、期待以上の効果を上げることができた。 アンケート調査では、道路環境や防災時の対応について満足度が高く、「道路が拡幅されよくなった」、「以前より防災性が向上したので安心感が増した」などの意見があった。												
--------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

5)実施過程の評価	実施内容		実施状況		今後の対応方針等
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
	住民参加プロセス	自主防災組織による地域防災マップの作成	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		● 地域防災マップ:他地域での地域防災マップづくりに活用する。
	持続的なまちづくり体制の構築	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		

都市再生整備計画(第6回変更)

しんぐみ かつら ふ そ き ち く
新組・桂・富曽亀地区

にいがたけん ながおかし
新潟県 長岡市

平成23年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	新潟県	市町村名	ながおか 長岡市	地区名	しんぐみ かづら ふそぎ 新組・桂・富尊亀地区	面積	954 ha
計画期間	平成	18	年度	～	平成	22	年度
					交付期間	平成	18 年度 ～ 平成 22 年度

目標

災害に強くうるおいのあるまちづくり

- 避難路を整備する。
- 地区住民の防災意識の向上と、災害発生時の施策の拡充を図る。
- 復興と併せて災害に強い都市構造の実現、農村集落の防災性向上と併せた活性化、住環境の向上を目指す。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

○当該地区は、東側を自然豊かな東山連峰とそのふもとに広がる農業地帯が占めていて、地区内の優良農地や東山の森林は市民にとって食料生産や環境保全のための貴重な基盤であることから、これらを適切に維持し、保全していく必要がある。地形的には、丘陵地から平野部に変わる位置にあり、裾野を唯一の幹線道路である県道が走り、各集落からの生活道路が幹線道路へと接続している。生活道路は地形的な制約から、曲がりくねり、狭隘な道路が多く、背後に多くの急傾斜地崩壊危険区域や砂防河川の指定区域を抱えていることから、土砂災害の危険性がある区域である。平成16年7月13日に発生した「7.13梅雨前線豪雨」と10月23日に発生した「新潟県中越地震」により人的被害はなかったものの、甚大な被害を受けた地区であり、被災した生活道路は大規模な被害、小規模な被害および今回は被災しなかったものの危険性が高い箇所等、修繕が必要な箇所が数多くある。

○地区の自主防災組織は数年前から組織され、市の防災訓練等にも参加し活動を行っている。今回の被災にあっても、組織員が自主的に集落内を巡視し、一部地域では自主避難の勧告も行った。ただ住民に防災意識が浸透していないことが、その指示に従わず、後に自衛隊の救援要請を仰いだことや各世帯から3日分の食糧、水、エネルギーを確保する必要があることなどから、地区の防災意識を高める必要がある。

○「7.13梅雨前線豪雨」により被災した生活道路の整備には大規模な被災箇所から小規模な被災箇所が多く点在し、「新潟県中部地震」では、多くの箇所で道路寸断（国道5箇所、県道8箇所、主要地方道4箇所）が起こった。1つの道路が寸断されても中心部と集落の交通が途絶しないように迂回路を確保することが可能な道路網を整備が必要。非常時における避難路として利用を想定しつつ、日常的には、自転車や徒歩で散策を楽しむルートとして、既存の道路への歩道の設置や川沿いの遊歩道の整備を行うことが求められている。

○一連の災害では、農村集落の孤立や避難所として指定されていた建物が被害を受け、避難所として機能しなかった等の問題が起こった。復興に併せ、農村の基盤整備を行い、防災性を向上するとともに活性化を図ることが求められている。

課題

「7.13梅雨前線豪雨」及び「新潟県中越地震」により甚大な被害を受けた当該地区において
 ○今回の災害に寄る被災者への精神的支援のための、うるおいのある空間形成が必要である。
 ○地区住民自らの防災意識を高め、災害発生時の連絡・支援体制の確立等防災面でのソフト施策の拡充が必要である。
 ○道路網の強化が必要である。
 ○農村集落の防災性向上と併せた活性化が必要である。

将来ビジョン(中長期)

○当該地区内の小規模被災箇所や、防災面・交通安全面などに問題ある箇所など、まちづくりに必要な事業を総合的に推進し、地域の防災性・安全性の向上を図る。

○当該地区の防災マップを地区の自主防災組織とともに作成する事で、地区の防災意識の向上と地区コミュニティの形成が図られ、活力のある地域づくりを推進できる。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
主要幹線道路までの到達時間	%	麻生田町一国道17号間の到達時間の短縮率	国道17号バイパス、国道351号等の寸断等に備えて、麻生田町から小曾根集落までの迂回路を整備し、各集落間の到達時間を短縮させる。	100	H18	80	H22
自主防災組織の会議	回／年	自主防災組織、地区住民の勉強会開催回数	地域防災マップ及び災害情報コンテンツ提供マニュアルの作成をテーマに、自主防災組織の会議を開催し、地区住民の防災意識の向上を図る	1	H18	3	H22

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
・避難路の整備 ア. 中心部と直接連絡する道路の新設 ○小曽根町と麻生田町を結ぶ道路を整備する。 ○堀金3丁目と永田4丁目を結ぶ都市計画道路を整備する。 ・農村集落の防災性向上 - 情報伝達機能の強化 ・ソフトな防災力の向上 ア. 災害情報内容の検証 ○緊急告知FMラジオの情報提供内容の有効性についての検証 イ. 地域住民の防災意識の高揚 ○自主防災組織により「地域防災マップ」を作成し、市民相互支援の仕組み（仮称市民助け合いシステム）構築		○道路整備事業（中心部と直接連絡する道路の拡幅改良）（基幹事業） ○公共土木施設災害復旧事業（関連事業）
		○地域生活基盤施設（地域防災施設の整備）（基幹事業） ○公共土木施設災害復旧事業（関連事業）
		○地域防災マップ及び情報伝達コンテンツ提供マニュアル作成事業（提案事業） ○まちづくり交付金事業実施に関する成果検証及びまちづくり方策検討事業（提案事業）
その他		

交付対象事業等一覧表

交付対象事業費	402	交付限度額	160.9	国費率	0.400
---------	-----	-------	-------	-----	-------

(金額の単位は百万円)

（参考）平成25年度														
事業		事業箇所名	事業主体	直／間	規模	（参考）事業期間		交付期間内事業期間		（参考）全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
事業	細項目					開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
道路	地方道	東幹線49号線	長岡市	直	L=1,079m	H18	H22	H18	H22	288	288	288		288
道路	地方道	都市計画道路3・4・52四郎丸町永田線	長岡市	直	L=179m	H19	H21	H19	H21	101	69	69		69
道路	地方道	山本160号線	長岡市	直	L=85m	H19	H22	H19	H22	16	16	16		16
地域生活基盤施設		新組小学校ほか2箇所	長岡市	直	—	H19	H20	H19	H20	24	24	24		24
合計										429	397	397	0	397
…A														
提案事業														
事業		事業箇所名	事業主体	直／間	規模	（参考）事業期間		交付期間内事業期間		（参考）全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
事業	細項目					開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
地域創造支援事業	地域防災マップ及び情報伝達コンテンツ提供マニュアル作成事業		長岡市	直		H21	H21	H21	H21	3	3	3		3
事業活用調査	まちづくり交付金事業実施に関する成果検証及びまちづくり方針検討事業	—	長岡市	直		H22	H22	H22	H22	2	2	2		2
合計										5	5	5	0	5
													合計(A+B)	402
…B														

[illegible]